

■いつまでも、あると思うな、この命

修正： 2016.07.01

投稿： 2016.07.01



●いつまでも、あると思うな、この命①

「寿命は有限である」

「生きている以上、いつかは死ぬ」

というのは、あくまで、頭の中での表面上の理解です。

ゆえに誰も、

「それが明日、いや今日かもしれない！」

などとは、これっぽっちも考えておりません。

「どーせ明日はあるだろう！」と、**不確かな未来に、
漠然とした安心感を抱いて生きているのが人間です。**

「明日はある」は、明日になっても「明日はある」であり、
いつまで経っても「明日はある」ということになります。
つまり、「明日はある」と考えているということは、
永遠に続く感覚でものを考えているということに他なりません。

「寿命は有限である」

「生きている以上、いつかは死ぬ」

という頭の中の理解とは裏腹に、私達は、心の奥底では、
「いつまでも生きていける」と信じて生きているものです。

そんな中、体調を崩し、行った先の病院で医者から突然

「あなたの余命はあと1年です」

と宣告されたならば、どのような気持ちになるでしょうか？

「永遠にある」と思っていた命が「あと1年」

と、唐突に現実を突き付けられるのです。

そうなって初めて

「あと1年か……。この1年、いかに過ごすか。…。(。´ω´)?」と
本気で時間の使い方を改めて考えることでしょう。が、しかし、

もしかしたら、

「明日には交通事故で命を落とすかもしれない」

などということはこれっぽっちも考えておりません。

余命が1年でも「明日はある」と、

どこまでいっても「明日はある」と思い込んで
のほほんと生きているのが人間の実態です。

(続)

//=====//

●いつまでも、あると思うな、この命②

小学生や中学生にとって 8 月 31 日とは、
一年の中でも特に思い出の詰まった日
ではないでしょうか？

夏休み最後の日、まだ終わっていない宿題を徹夜で片づけ、
何とか始業日までに間に合わせる、そんなドタバタした一日です。

では、**人生最期の日**であればどうでしょうか？

「まだやり残したことがある。死ぬまでに終わらせてやる！」

と徹夜して、何とかやり遂げてから満足してこの世を去る、
というわけにはいきません。

いつがその日その瞬間なのか分からないからです。

夏休み最後の日 は 8 月 31 日です。これは明確に決まっています。

しかし、人生最期の日 は決まっておりません。ゆえに、
人生最期の日 から日数を逆算して計画を立てる
ということもできません。

夏休み 40 日間、小学生からすると、

「永遠の休みが与えられた」かのようにすら思える、

長くも短い夏休みです。

宿題もせず、ただ遊んでばかりいた小学生も、
8月31日になれば、唐突に宿題の存在を思い出し、
何とか明日までに、と間に合わせることでしょう。

同様に、人生80年間（平均寿命）、
「永遠の寿命が与えられた」かのようにすら思える、
長くも短い一生です。

しかし、夏休みとは違って、唐突に終了するのが人生です。
であるならば、どう考え、どう生きていけばいいのでしょうか？

（続）

//=====//

●いつまでも、あると思うな、この命③

「あ〜あ、俺っていつかは死ぬんだよな…。(´・ω・｀)」と気づき、
「たった一回きりの人生、だったら思う通りに生きてやれ！(´ー´)ノ」
と、ふっきれる人がいます。その一方で、

「どうせいつか消える運命なら、楽に生きよう…。(￣д￣)」
と消極的に考えてしまう人もいます。はたまた、

「どうせいつか死ぬのだから、欲望のままに生きてやるぞ！<(´^´)>」
と身体を壊すことも平気で、目先の快樂だけを追求し、
本能のままに生きようとする人もいます。

「死」を観ずると一口で言っても、観じ方は人それぞれです。

人生を無駄にしないよう「何かをやろう！」とふっきれる人もおれば、
「どうせ死ぬのだからもうどうでもいいや～」と無気力になる人もいます。

これを夏休みに置き換えてみるとどうでしょうか？

「どーせ夏休みもいつか終わるのだから、宿題なんてしなくていいや～」
という小学生・中学生などいるのでしょうか？
「どーせやらなければならないのだから、とっとと終わらせておこう！」
と考えるのが普通ではないでしょうか？

人生と夏休みでどうしてこうも考え方に違いが表れるかというと、
夏休みが終わっても、**その先にはまだまだ続きがあることを知っているから**です。
一方で人生は、終われば次があるかどうかは分かりません。
死後の世界はあるかもしれませんし、ないかもしれません。

もし、人生が、死んだ瞬間にすべて終わるのであれば、
努力することは無意味かもしれません。
ですが、もし、人生が、死んでも終わらなかったなら、
努力せずに生きたことが無意味ということに他なりません。

いつ死ぬか分からない、死んだらどうなるかも分からない人生ですが、
どう考えて、どう生きていけばいいのでしょうか？
そしてこの疑問は、いつまでも先延ばしにはできません。
なぜならば、**命はいつまでもは続かない**からです。

(完)

//=====//

Web サイト：

心を力学する ―原理・原則に基づく生き方を考える―

著者：

時無 和考(Tokinashi Kazutaka)